

9 書く活動についての説明

(1) 書く活動Ⅱ

①【既習の知識】

人数の数的優位性の理解

2対1、3対2におけるアウトナンバーでの速攻の仕方
・2線速攻、カットイン、スクリーンプレー、ハンズオフ

【問い】

オールコート「2対1→2対2」速攻で効率よくボールを運んだり、パスやシュートにつないだりするためには、どのような動きをすればよいだろうか。

②、③、④は順不同

理由付け

【事実】

- ① 2対1…2線速攻
※速攻展開初期は、2対1のアウトナンバーである。
- ② 2対2…セットオフense
※人数的対等な場面では、パスやシュートにつながりにくい。

【主張】

- ①' 2対1…2線速攻
「2人目のディフェンスが参加する前にシュートまで展開すればよいのではないか」
- ②' 2対2…セットオフense
「人数的対等な場面(2対2)から、人数的優位な局面(2対1や1対0)をつくり出すことができればよいのではないか。」

③【理由付け】 見方・考え方

- 2対2の人数的に対等な場面からでも、人の動きを工夫すれば、瞬時ではあるが、2対1の人数的優位な局面(アウトナンバー)を生み出すことは可能である。
- ①' →トランジション(攻守の切り替え)・アーリーオフense(速い攻め)
 - ②' →カットイン・スクリーンプレー(ボールを持っている人のDFへ)

(2) 書く活動Ⅲ [学んだ内容・自分の考えの変容・学びの発展、転移性]

※ 単元計画の三次の(5)において

まとめ

『何を』

振り返り

『どのように』

『使えるか』

【これまで学んだことの明確化】

○オールコート「2対1→2対2」

速攻…既習の学び

① 2対1…2線速攻

※パスの回数も減らし、フリースローレーンの距離を走る

・トランジション

(攻守の速い切り替え)

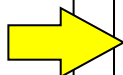
・アーリーオフense (速い攻め)

② 2対2…セットオフense

・カットイン

・スクリーン

(ボールを持っている人のDFへ)



【既習の学習と新しく学んだ考え方をつなげてまとめる】

問い オールコート「2対1→2対2」速攻で学んだことを「3体2→3対3」速攻につなげる(応用する)には、どのような動きを意識してゲームを展開すればよいだろうか。

○ オールコート「3対2→3対3」速攻…新しい学び

③ 3対2…3線速攻

「3人が協力することで、より効率よくボールを運ぶことができるのではないか」

④ 3対3 (セットオフense)

「3人が協力して攻めることで、より多くのシュートチャンスが生まれるのではないか」

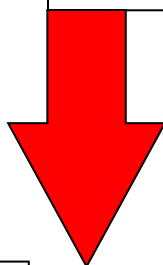
※不要なパスを減らし、コート縦3分割の距離を走る

・ワイドラン ・クリスクロスラン

※トライアングルオフense (かき型・たて型)

・カットイン ・ポスト ・ハンズオフ

・スクリーン (ボールを持っている人のDFへ、持っていない人のDFへ)



【本時】

ためす

【これまでの学習を通してまとめた作戦をためす】

→③ 3対2…3線速攻 ④ 3対3 (セットオフense) の場面で、効率よくボールを運んだり、パスやシュートにつなげたりする作戦を立てる。

→作戦をためす。

→課題をもとに作戦を練り直す。

→再度、練り直した作戦をためす。

→振り返り (成果と課題)